

役員所感

副理事長兼特別委員長 藤井 浩幸

【基本方針】

近年の厳しい経済情勢の中で、青年会議所の会員減少に歯止めが掛からず同時に大幅な入会と卒業を繰り返すことによる経験者不足や会員資質の低下といった問題が全国各地の青年会議所において起こっています。また、現在の社団法人格からの法人格変更を求められる環境も加わり、まさに「組織の進化」と「J Cの真価」が問われる事態となっています。この様な状況は上越J Cにも少なからず共通するところで、従来通り地域の諸課題に取り組む運動の他に組織の改革や強化と会員各々の人材育成を急いで進めなければなりません。

そのためにまずは、個人的には2年連続となる副理事長職を務めるにあたり、基本に忠実に理事長職に「副」が付くという意味を十分に自覚し、客観的な視点を保ちつつも理事長の想いや考え方の具現化に尽力します。また、会員相互の交流を大切に円滑なL O M運営に努めていくことはもちろんのこと、日本J C本会の議長と新潟ブロック協議会の会長をはじめ数多くの志高きメンバーが出向することを踏まえ、各種大会や各種事業へ積極的に参画します。同時にメンバーに対しても他の役員や理事の協力も仰ぎながら、出向するメンバーをL O Mをあげて支援するといった機運を創り出し、各種大会や各種事業への参加率の向上に努めます。また、事業の合間や懇親会などの時間を利用し、特にJ C経験が浅い若い会員に対しては、自分自身が諸先輩から学んできたことや入会10年間での経験談などを伝えながら上越J Cの次代を担うメンバーの育成に注力します。さらに、現在の社団法人格から法人格の性格変更が求められる中で、上越J Cが今日まで培ってきた様々な運動や活動について具体的且つ多面的に検証し、必要なところは修正し、将来に亘って大きな支障をきたすことの無い形でスムーズに変更が進められる様に努めます。

様々な要因により、今後数年の間に青年会議所の在り様が大きく変わっていくことが予想されます。しかし、一つひとつの物事の本質を見極め「変えてはならない事」と「変えるべき事」を明確に棲み分けし進めていかななくてはなりません。その先にこそ我々が誇りとする上越J Cがあり、ひいては明るい豊かな社会の実現へと繋がると確信しています。